

## 感染制御部

### ■ スタッフ

部長	兼児 敏浩
医師	2名
看護師	2名
薬剤師	1名
臨床検査技師	2名

### ■ 感染制御部の特色

感染制御部は、2007年4月に設置されました。2010年から2016年の間は、医療安全部門と感染制御部門が統合した医療安全・感染管理部として活動しておりましたが、2017年からは再度、感染制御部となりました。直接診療を行う部門ではありませんが、病院内での感染対策を通して、患者の皆様が安心して受けていただける『良質な医療』の提供を目指して活動しております。

#### 1. 当部の特色

- 感染制御部に所属する専任・専従の医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師に加えて、看護部、薬剤部、中央検査部、事務部、診療科等から選出されたメンバーにより感染対策チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を設置し活動している。
- 感染防止対策加算・感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用加算にもとづき、地域の病院と連携して感染対策活動を行っている。
- 三重県全体の感染対策を支援する三重県感染対策支援ネットワーク(MieICNet)の事務局を担っている。

#### 2. 業務内容

- 院内感染対策マニュアルの作成・改訂
- ICT ラウンド
- 感染症発生の動向調査・把握、アウトブレイク対応
- 感染症に関する情報提供・教育
- 感染症診療・感染症対策コンサルテーション
- 抗菌薬適正使用の推進
- 職業感染対策(ワクチン接種、結核予防、針刺し防止対策等)

- 感染性廃棄物の取り扱い

### ■ 活動実績

病院内の感染対策活動に加え、地域における感染対策活動にも従事している。

#### 1. 業務実績

##### <病院内>

- 院内感染対策マニュアル改訂(2020年10月)
- ICT ラウンド 48回
- 感染症法上の基幹定点医療機関としての届出の実施
- ICT ニュース発行 12回
- 感染症コンサルテーション 60件(感染症内科と共同で実施)、AST 支援件数 318件、感染対策コンサルテーション約 1000件
- 職員に対するB型肝炎・麻疹・風疹・ムンプス・水痘・インフルエンザワクチン接種

##### <地域>

- 感染防止対策加算もとづく合同カンファレンス 4回
- 感染防止対策地域連携加算にもとづく相互チェックの実施
- 国公立大学感染対策協議会総会参加 MieICNet 事務局活動

#### 2. 教育活動の実績

##### <病院内>

- 新規・中途採用者研修、全職員への感染対策研修会の実施
- 看護部院内ラダー研修、看護助手研修
- 委託業者への感染対策研修
- 医学部医学科・看護学科学生に対する感染対策研修

##### <地域>

- MieICNet 研修会の実施
- 三重県看護協会、三重県消防学校等における感染対策研修会の講師
- 三重県内の新型コロナウイルス感染症クラスター発生時の対応支援

### 3. 研究等の実績

よう引き続き努力してまいります。

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/kansen-seigyo/>

#### <感染対策分野>

- 手指衛生モニタリング機器を活用した手指衛生遵守率向上のための効果的な啓発方法の検討
- 科学研究費助成事業（基盤研究C）：地域統合型医療情報データベースを用いた抗菌薬適正使用の評価に関する研究（研究代表者：田辺正樹、分担研究者：高橋佳紀） など

<新型インフルエンザ分野> 厚生労働科学研究費補助金・新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業：新型インフルエンザ等の感染症発生時のリスクマネジメントに資する感染症のリスク評価及び公衆衛生的対策の強化のための研究 20HA1005）（分担研究者：高橋佳紀）

### ■ 今後の展望

細菌感染症の治療薬である抗菌薬が効かなくなる薬剤耐性（AMR）が世界的な問題になっています。このまま何も対策をとらない場合、2050年には癌を超えて、薬剤耐性が最大の死因となると推計されており、日本においても、2016年に薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが策定され、国をあげた取り組みが行われています。

AMR対策は、個々の医療従事者や個々の医療機関で対応できるものではないため、地域全体での取り組みが求められています。このような社会的情勢を受け、三重県では、2015年に三重感染対策支援ネットワーク（MieICNet）を立ち上げ、様々な活動しております。このような感染対策地域ネットワークを全国各地で構築していくことを目的とした厚生労働科学研究が設定され、三重県がモデル県として指定されました。

『患者さんも職員もハッピー』が当部のめざすところですが、そのためには院内だけではなく、地域全体の医療機関と連携していく必要があります。院内活動だけでなく、三重県全体に貢献できるよう、今後も引き続き活動を行っていきたいと考えております。

2019末に中国で確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生を受け、三重大学病院としても様々な対応を行いました。早く終息できる